

奈良きたまち地区における景観形成推進のための調査

平成 17 年 3 月

奈良街道まちづくり研究会

(社) 奈良まちづくりセンター

1	奈良きたまち地区の景観分析	
1 - 1	奈良きたまち地区の概況	1
1 - 2	歴史や人物、物語などの人文要素の抽出	2
1 - 3	軸（通り）を構成する建造物要素 1 の抽出	7
1 - 4	面を構成する建造物要素 2 の抽出	13
1 - 5	河川及び樹木等の自然要素の抽出	20
1 - 6	人文要素、建造、工作物、自然要素の分布状況	22
1 - 7	用途等の地区・地域指定の状況	23
2	奈良きたまち地区の住民意識等の把握	
2 - 1	第 1 回ワークショップの議論概要	25
2 - 2	第 2 回ワークショップ（中間報告）の概要	28
2 - 3	奈良きたまち地区・まち歩きスケッチの概要	30
3	奈良きたまち地区の景観計画	
3 - 1	奈良きたまち地区の特性と課題（問題点）	34
3 - 2	奈良きたまち地区の景観形成の基本方向	37
3 - 3	景観形成ゾーンの基本的な考え方と施策等	40
3 - 4	景観重要建造物・元信用金庫建物の利活用計画	44

1 奈良きたまち地区の概況

1 - 1 奈良きたまち地区の位置

「奈良きたまち地区」とは、奈良町の中でも近鉄奈良駅より北側の広い地域一体を指す。(下図) この呼び名は、実際に町名としてあるのではなく、一般的なエリアの「総称」として使われている。

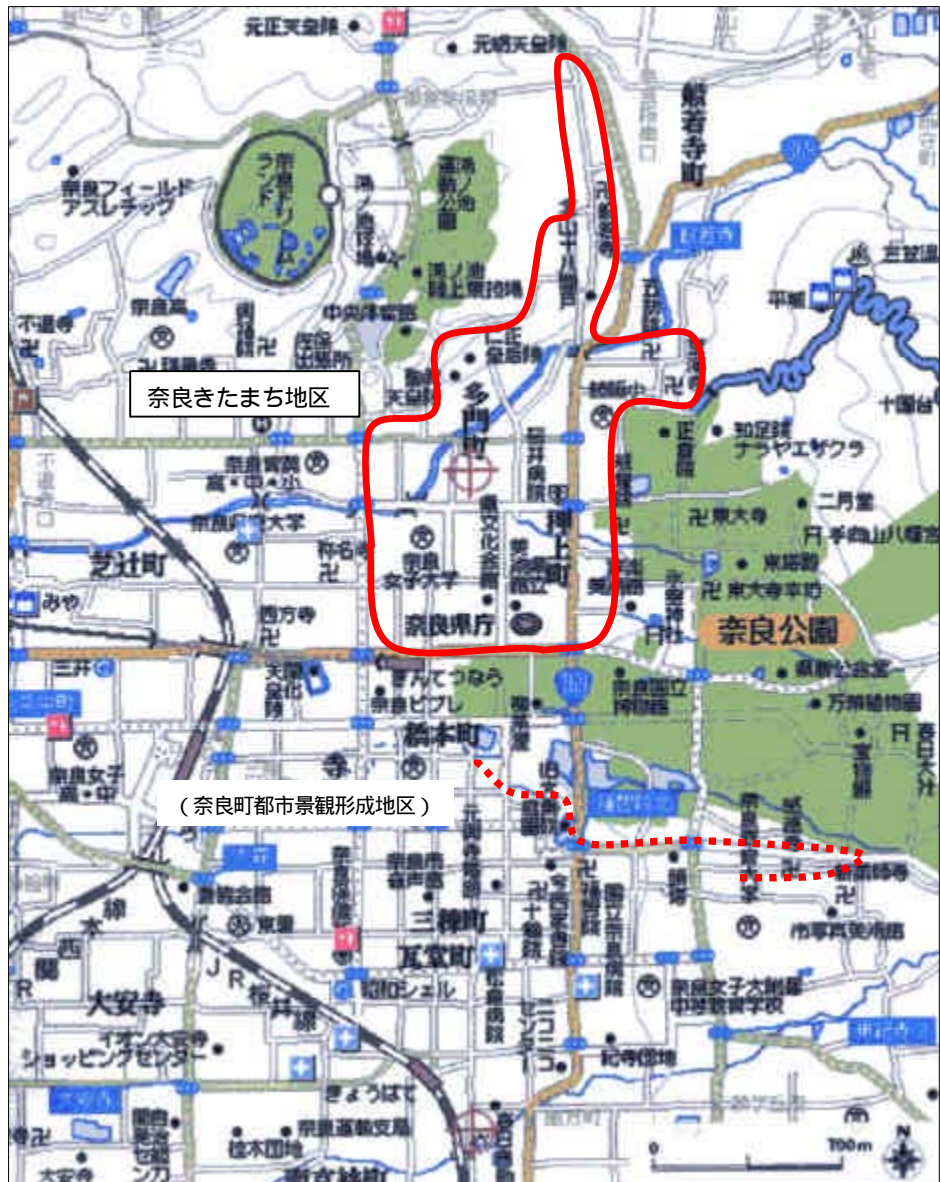
古くから京都へ通じる主要な街道である「旧奈良街道」と転害門から西へ延び、平城宮に到る「一条通り」を地域の主要幹線(骨格)道路とし、その地区内には奈良県庁をはじめ、県立美術館や東大寺境内、奈良女子大学、国宝の転害門、多聞山城跡、般若寺、奈良豆比古神社など、数多くの歴史遺産等が散在する。かつては、奈良及び奈良町の中心拠点並びに商業拠点として、大いに賑わった広範囲なエリアである。地区の面積は、おおむね100~120haであり、東西の幅(やすらぎの道~奈良街道)は約85m、南北の長さ(県庁~奈良坂)は約2.3kmのエリアである。

この地区では、地域を活性化し、かつ安心して楽しく暮らせる、まちを愛し、誇りに思う「まちづくり」を推進するために、平成10年8月に「奈良街道まちづくり研究会」という市民グループが誕生した。

月に1、2回程度の研究会やウォーキング調査などを行い、これまでに佐保川の河川清掃や歴史講演会、二月堂竹送り式、多聞山城の幻燈会など、様々なイベントや行事を実施してきた。

「住みたいまち」、「住み続けられるまち」、「コミュニティに溢れた楽しいまち」などを目指して、地域ぐるみのまちづくり活動が、鋭意、進められている。

奈良きたまち地区の範囲



1 - 2 歴史や人物、物語などの人文要素の抽出

奈良きたまち地区は、奈良時代より現代に至るまで連綿と続き歴史が繰り広げられてきた地域であり、日本文化の中心であった証として、一つ々の建物や道、河川、地名等に多くの物語が隠されている。今回収集したものは、その代表的なものを拾い上げリストアップした。

景観要素・名前	その概要・コメント	写真
1. 南都八景 / 雲井坂の雨 (押上町)	室町時代にわが国初の「八景」として提唱された「南都八景」のひとつ。当時は西大門があり、街道の往来も盛んであった。この坂を越ると一の鳥居が見える。街道のゴールとなる最後の急坂。	
2. 南都八景 / 佐保川の蜩 (今在家町)	「南都八景」のひとつ。奈良街道の今在家にかかる橋から見た風景。この場所が選ばれたのは、佐保川のなかでも、奈良街道の往来が盛んで目についたのが理由。	
3. 転害門 / 平家物語ほか (手貝町)	東大寺創建時の建物。10月の手貝会は、かつては、奈良一番の祭り。頼朝の命をねらう景清が潜んでいたことから、別名「景清門」。平家物語の激戦場。柱の矢じりは戦国時代の三好・松永の戦いの時のものか。	
4. 井原西鶴 / 日本永代蔵 (手貝町)	日本永代蔵に、奈良の庭籠として、蛸売りの八助と手貝のご隠居のやりとりや、年末の奈良ののんびりした風景が描かれる。	
5. 対山楼 / 四大旅籠町 / 一流の旅館 (今小路町)	江戸から明治にかけて、押上町・今小路町は奈良の四大旅籠町。今小路町の対山楼は奈良を代表する旅館。伊藤博文などの明治の元勳、学者、芸術家などが多く逗留。鉄道駅が三条にできてから寂れていった。	
6. 松屋会記 / 屋敷跡 / 茶道 (今小路町)	天王寺屋会記とならびわが国を代表する茶会記「松屋会記」が記された松屋（塗師）の豪邸があった。戦国から江戸までの100年間、わが国を代表する大名や茶人などが登場。	

<p>7. 佐保川の石橋 / 大仏復興の石橋 (今在家町)</p>	<p>1650年築造。奈良随一の石橋。現存石橋では日本最古のグループ。大仏殿再建の巨木が渡った。また20年ごとの春日大社立替えの用材が渡る際に、今在家の町民が橋の補強を行ってきた。当時の図面残る。</p>	
<p>8. 文殊四郎手貝包永 / 刀鍛冶 / 国宝の刀 (包永町)</p>	<p>きたまちは、鍛冶の町。鎌倉～室町に活躍した刀鍛冶包永が活躍。反りのある厚い刃が特徴。鍛冶の神様「八鐵神社」「玉鐵神社」がある。昭和30年代まで、きたまちは鍛冶屋、農機具店が多くあった。</p>	
<p>9. 東京極大路 (押上町、今小路町、手貝町、今在家町)</p>	<p>平城京外京の東端の大路。道の東は東大寺の築地塀が連なり、西大門・中門・手貝門があった。奈良街道。奈良時代から明治まで、京都への玄関口としてさかえた</p>	
<p>10. 平重衡の南都焼討ち / 平家物語 (奈良阪・一条通り)</p>	<p>1180年に南都焼き討ちをし、大仏殿を焼いた。平家物語に般若坂と手貝門の攻防が迫力。重衡の本隊は法華寺から一条通りの東端、手貝門めざして攻め上がった。一条通りは平城京当時、巾24mあった。</p>	
<p>11. 松永久秀 / 多聞城 (多聞町)</p>	<p>わが国で初めての天守閣を備えた城。初めて奈良を支配した大名。城の石垣に使われたおびただしい石仏がきたまち一帯に散在。大和を代表する豪華絢爛たる名城。後年信長が安土城のモデルにした。史上有名な信長の蘭奢待切り取りはこの多聞城内であった。</p>	
<p>12. 僧・忍性 / 北山十八間戸 (般若寺町)</p>	<p>鎌倉時代の僧。北山十八間戸を建て、ハンセン氏病の患者の救済にあたった。わが国の福祉のルーツとも言える。</p>	
<p>13. 宮本武蔵 / 吉川英治 (般若寺町)</p>	<p>武蔵が、奈良の悪者と闘った般若坂の決闘は、吉川英治の小説に詳しい。</p>	

<p>14. 奈良少年刑務所 (般若寺町)</p>	<p>西洋に近代国家として認めもらうには、近代的な監獄の整備は急務であった。明治の5大監獄のひとつが奈良少年刑務所。創建当時の全施設が残っているのは日本でここだけ。他は門だけ残る程度。設計者山下啓次郎はジャズピアニストの山下洋輔の祖父。</p>	
<p>15. 会津八一 / 夕日地藏 (般若寺町)</p>	<p>「見かえりの坂」にある夕日観音(室町)を詠んだ「ならさかのいしのほとけのおとかひにこさめなかるはるはきにけり」は有名。</p>	
<p>16. 般若寺 / 平家物語・太平記 (般若寺町)</p>	<p>街道を挟む敷地で城郭のような寺院だった。平重衡の南都焼き討ちの際、般若坂の攻防は平家物語に詳しい。また、太平記の大塔宮護良親王が唐櫃にかくれ追っ手から逃れるくだりはスリルいっぱい。唐櫃が残る。</p>	
<p>17. 奈良豆比古神社 (奈良阪町)</p>	<p>毎年10月8日に催される翁舞は、県無形重要文化財。室町時代の能面・装束が伝わる。</p>	
<p>18. 大仏殿復興の道 (奈良阪)</p>	<p>1709年に大仏殿が再建されるが、柱や梁などの巨大な用材は、木津で陸揚げされ、この奈良阪を数千の人力で運ばれてきた。「大仏復興の道」といえる。ダイナミックな様子は「大仏棟引図」で有名。</p>	
<p>19. 新納忠之介 / 武蔵美術大学寮 / 仏像修復 (雑司町)</p>	<p>新納は、岡倉天心・フェノロサ等と親交があった仏教美術家。2千を超える仏像の修復を手がけ、現在われわれが国宝の仏像に接することができるのは新納のおかげ。</p>	
<p>20. 重源・公慶 / 五劫院 / 大仏再建 (北御門町)</p>	<p>北御門町の五劫院は、鎌倉時代大仏再建をした重源がいた寺。また、江戸時代の大仏再建をした公慶の墓もある。</p>	

<p>21. 鼓阪小学校講堂 (雑司町)</p>	<p>昭和11年建築。瓦屋根・鉄筋コンクリートの堂々たる講堂。正倉院に隣接するため御下賜金をいただき建設。鼓阪小学校は、奈良奉行所の学問所明教館がルーツ。</p>	
<p>22. 棚田嘉十郎 / 平城宮復興を夢見たまち (東笹鉾町)</p>	<p>東笹鉾町に住んでいた。平城宮保存運動に目覚め、平城宮復興を夢見て奔走したまち。保存運動の大半の期間をこの町を拠点にして熱き心で活動していた。</p>	
<p>23. 奈良奉行所 (北魚屋町)</p>	<p>1613～1868。43代の奉行。9千坪あり、城のような造り。日本最大の奉行所。幕末の川路聖謨は名奉行。正面の道具店は中がのぞけないように2階に窓がない</p>	
<p>24. 奈良女子大 (北魚屋町)</p>	<p>明治42年創立。正門、守衛室、記念館は、重要文化財。奈良を代表する明治の建築物。わが国女性教育の記念碑的な建物。</p>	
<p>25. 村田珠光 / 称名寺 / 茶道 (菖蒲池町)</p>	<p>言わずとしれた茶道の祖。利休は孫弟子になる。きたまち中御門町の生まれ。称名寺に茶室が残る。千体地蔵でも有名。</p>	
<p>26. 由縁齋歌塚 / 念声寺 / 奈良墨 (川久保町)</p>	<p>川久保町の念声寺。江戸時代に古梅園の墨が天皇に献上されたことを記念して、鯛屋貞柳の狂歌の碑がある。貞柳はこの歌で由縁齋(油煙=墨こと)と呼ばれる。</p>	
<p>27. 玄昉 / 悪霊伝説 (大豆山町・水門町)</p>	<p>藤原広嗣の悪霊にバラバラにされた僧玄昉の眉と目が落ちてきたのが、大豆山町。胴体は水門町に胴塚弁天がある。</p>	

<p>28. 甲冑師 / 絵師 (半田町)</p>	<p>半田座という絵師の集団が工房を構えていた。また、江戸時代、奈良の4大甲冑師の集団「半田氏」がいた。</p>	
<p>29. 宿院町 / 仏師</p>	<p>京都から来て春日大社の春日祭に出仕する勅使や上卿の宿坊があった。平安時代の蜻蛉日記にも登場。16世紀頃には宿院仏師という仏師のグループが活躍していた。</p>	
<p>30. 後藤町 / 彫刻</p>	<p>かつて「奈良後藤」といわれ、刀や脇差しの柄頭、目貫などの銀工彫刻で知られた工人がすんでいた。永禄年間に活躍した後藤乗意は、三好松永の戦いで焼け落ちた大仏の首を応急補修したことで知られる。</p>	
<p>31. 二条通り / 平城京のメイン通り ・ 坊屋敷町、宿院町、鍋屋町、油留木町</p>	<p>平城宮から、天皇が東大寺へ参拝するときのメインルートであるため、平城京では朱雀大路に次ぐ第二位の道幅36mだった。東の突き当たりが東大寺西大門。西は朱雀門にあたる。</p>	
<p>32. 佐保川 / 万葉集</p>	<p>佐保川は万葉集に、19首。川の神は「佐保姫」春を象徴する女神。西包永に佐保姫を祀る神社。青柳と千鳥、カジカ鳴く清流。「うち上る佐保の川原の青柳は今は春へとなりけるかも」(大伴坂上郎女)</p>	

1 - 3 軸（通り）を構成する建造物要素 1 の抽出

本地区の道路骨格に当たる奈良街道（京街道）及び一条通りの沿道町並み景観に関する建造物の調査結果については、次頁より、その重要な建造物の景観を写真で収集した。なお、この調査プロセスにおいて検討された事項等をまとめると以下の通りである。

A 1 : 奈良街道とは、ここでは県庁横の押上町～佐保川石橋までの間を示す。

A 2 : 旧奈良街道とは、ここでは佐保川石橋～奈良豆比古神社までを示す。

B : 一条通りとは、ここでは転害門～法蓮橋までを示す。

A 1 及び A 2 には、東大寺の境内（庭園）や転害門（国宝）、北山十八間戸、般若寺、奈良豆比古神社などの重要な中世～近世の遺跡や寺社、建物等が点在する。

大正 3 年の大阪・上本町～奈良・高天町の間に見近鉄奈良線が開通するまでは、この奈良街道沿道及び一条通りの転害門一帯は「奈良の中心拠点」として大いに賑わっていた。

この時代の賑わいを伝えるような「奈良きたまちの風景写真」などは無いのだろうか？

きたまち地区の「アイデンティティ」を発掘し、まちのイメージを展開・創造する必要がある。

奈良街道は奈良時代から京都や木津町を結ぶ重要な街道で、古い町並みがあった。しかし、近代に入り、道路の拡幅整備をする度に沿道の伝統的な建物は壊されたいった。現在では明治以降の建物しか残っていない。江戸期の建物は沿道には無く、沿道の奥に少し残っているようだ。

ポイント状に点在する中世期の遺構・建物と街道に沿う明治以降の近代町家など、時代の異なる地域資産が歴史の軸を形成している。沿道は、近代町家が連なる歴史的な軸だと言える。

A 1 においては、明治～大正～昭和初めの商家の本店が多く残されており、A 2 においては、少年刑務所や初期の水道施設などの近代建物・遺構が残されている。

しかし、残念ながら、奈良街道及び一条通りの町並みはあまり連続していない。従って、今後とも沿道景観を修復し、形成して行くという考え方が求められる。転害門周辺の奈良街道と一条通りの横 T 字型のゾーン一体を景観形成地区に指定し、積極的な景観形成を図る必要がある。いずれにしても、地区住民との話し合いと住民意向の高まりが求められる。

転害門北横の元信用金庫建物（空き家）を「近代町家のモデル修復事業」として整備し、奈良きたまちの「観光情報センター」ないしは「地域交流センター」などの拠点施設にする。一部をオープンカフェやカフェバーなどにし、地域の人達も利用する楽しい施設として活用する。

その他、周辺の空き家になっている近代町家などを「景観重要建造物」に指定して修復し、地区住民による景観協議会を立ち上げ、NPO等の景観整備機構により、それらを維持管理・運用することが考えられる。

(1) 奈良街道 (国道 369 号) の沿道建物調査結果

景観要素等	その概要、コメント	写真 (デジカメ)
<p>1.店舗 (町並み創造建物) 吉野本葛、天極堂 (押上町)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・外壁の黒木目調は、沿道の町家ファサードに相通ずる ・東大寺の庭や自然と調和している ・景観重要建造物の指定候補 	
<p>2.町家 中村土地家屋調査士 (押上町)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・大正～昭和初期の商家建物 ・生業が続けば、町家が残る可能性は高い ・景観重要建造物の指定候補 	
<p>3.町家 松井久次 (押上町)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・屋根が美しく、単調さを避ける工夫がある 沿道町家の中では最も美しい ・黒漆喰と駒寄せ(木柵)が典型デザイン ・景観重要建造物の指定候補 	
<p>4.八坂神社、祇園社 (押上町)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・奈良街道に於ける京都の残影 ・沿道に歴史と文化の余裕を与える ・景観重要建造物の指定候補 	
<p>5.東向き道路の延長の自然と歴史 焼門前交差点 (押上町、今小路町)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・東大寺の土塀と燈籠が望める ・修景整備はなされていないが美しい ・景観重要建造物の指定候補 	
<p>6.店舗 (町並み創造建物) 吉川春陽堂 (今小路町)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・掛け軸のなどの表装屋さんのお店 ・1階の黒色は、近代町家に合わせている ・2階以上は軽快な白色、良質なデザイン ・景観重要建造物の指定候補 	
<p>7.連続する町家 並川、水伊、盛岡、泉屋 (今小路町)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・多少、老朽化が進んでいる。 ・景観重要建造物の指定候補 	

<p>8.地域の超シンボル 転害門 (今小路町、雑司町)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・世界遺産、国の重要文化財 ・後背の鼓阪小学校講堂屋根がマッチする ・奈良街道と一条通の重要なシンボル ・転害門に並ぶ両隣の建物の整備が必要 	
<p>9.町家 元信用金庫(現在空家) (今小路町)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・観光及び交流センターなどに活用すべき ・町家の改修モデル事業にする ・改修して活用、景観整備機構が管理運営を図る 	
<p>10.連続する町家 (手貝町)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・町家、老朽化が進行中 ・景観重要建造物の指定候補 	
<p>11.町家 ナラニット秋田 (手貝町)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・瓦屋根に銅板や壁面にタイルを使った商家が一時期流行した ・近代和洋風建物として保全 ・但し、1階のシャッターは改修が必要 	
<p>12.八鉄神社 (手貝町)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・東大寺関連の鍛冶職人町を伝える小神社 ・沿道に歴史文化環境を形成 ・景観重要建造物の指定候補 	
<p>13.町家 (伝統的な醤油醸造元) 向出醤油店 連続する町家</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・明治12年創業の醤油醸造元建造物 ・奈良まちかど博物館の1つ ・景観重要建造物の指定候補 	
<p>14.町家 (和風改装事例) 高山 (今在家町)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・美しく改修された近代町家 ・景観重要建造物の指定候補 	
<p>15.町家 (伝統的な笠屋) 奥野傘店 (今在家町)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・東大寺の大きな提灯を製作する笠屋 ・町家、老朽化が進行中 ・景観重要建造物の指定候補 	

(2) 佐保川石橋から奈良坂までの沿道建物調査結果

景観要素等	その概要、コメント	写真(デジカメ)
<p>1. 奈良阪 (東之阪町)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ここから眺望が開け、東大寺大仏殿の大屋根が望める ・眺望に関する景観協定の検討 	
<p>2. 町家 国岡、大原 (東之阪町)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・町家、老朽化が進行中 ・景観重要建造物の指定候補 	
<p>3. 北山十八間戸 (川上町)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・江戸時代に再建、その後全面修復された ・貴重な歴史及び観光資源 ・文化財指定されている 	
<p>4. 近代建築(A D様式) (川上町)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・アールデコスタイル風の奈良市水道計測器場 ・新たな活用を検討する ・景観重要建造物の指定候補 	
<p>5. 町家 法蓮格子 (興善院町)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・美しい伝統的な町家、奈良らしい格子 ・景観重要建造物の指定候補 	
<p>6. 町家 仲井 (般若寺町)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・美しい伝統的な町家、奈良らしい格子 ・景観重要建造物の指定候補 	
<p>7. 般若寺 (国宝の楼門) (般若寺町)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・花の寺、コスモス寺として名高い ・国の重要文化財 ・飛鳥時代に創建され、平安時代には学問寺として天下に知れわたった 	

<p>8. 奈良少年刑務所 (般若寺町)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ジャズピアニスト山下洋輔の叔父、山下啓次郎の設計、明治41年の洋風建築 ・地域との連携もあり、親しまれている ・景観重要建造物の指定候補 	
<p>9. 植村牧場 (般若寺町)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・明治17年創業の奈良最古の牧場 ・ユニークな牧場、自家製の牛乳とソフトクリーム販売、障害者を雇用 ・35頭の牛と2頭のミニホース ・奈良まちかど博物 	
<p>10. 町家 法蓮格子 (般若寺町)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・美しい伝統的な町家、奈良らしい格子 ・景観重要建造物の指定候補 	
<p>11. 水道局のコンクリート塀 奈良阪配水池 (奈良阪町)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・奈良まちの水道の歴史を伝える施設 ・もう少しオープンに、公園的な使い方を検討する 	
<p>12. 町家 平田公昭 (奈良阪町)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・美しい伝統的な町家 ・景観重要建造物の指定候補 	
<p>13. 西福寺 (奈良阪町)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・重要文化財の仏像が6体もある ・小さな檀家寺に重文があるのは珍しい 	
<p>14. 奈良豆比古神社 (奈良阪町)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・境内の舞台で奉納される「猿楽の翁舞」は国の重要文化財に指定されている ・樹齢1200年の天然記念物の楠がある ・景観重要建造物及び樹木に指定 	
<p>15. 町家(蔵付) 赤井 (奈良阪町)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・美しい伝統的な町家、蔵が美しい ・景観重要建造物の指定候補 	

(3) 一条通り(転害門~法蓮橋)の沿道建物調査結果

景観要素等	その概要、コメント	写真(デジカメ)
1. 眺望、興福寺の五重塔	<ul style="list-style-type: none"> ・ 細い路地からの眺望 ・ 長屋風の町家も残っている 	
2. 御菓子司萬林堂	<ul style="list-style-type: none"> ・ 老舗の和菓子屋さん ・ 景観重要建造物の指定候補 	
3. 町家 中西康雄 (東包永町)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 美しい伝統的な町家 ・ 景観重要建造物の指定候補 	
4. 町家 衣川鍼灸院 (東包永町)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 美しい伝統的な町家 ・ 景観重要建造物の指定候補 	
5. 町家 空き家 (東包永町)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 美しい伝統的な町家 ・ できれば景観整備機構が利活用する ・ 景観重要建造物の指定候補 	
6. 町家 倉本 宏 (西包永町)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 美しい伝統的な町家 ・ 景観重要建造物の指定候補 	
7. 法蓮橋 (西包永町)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 歴史的な地域のシンボルになる橋 ・ 景観重要公共施設の整備を進める 	

1 4 面を構成する建造物要素2の抽出

面による構成要素については、前項の奈良街道や一条通りの沿道景観を除く、奈良きたまち地区全体を5ヶ所の景観要素のブロックに分け、そのブロックにおいて景観上重要な位置を占めている建造物等を収集リストアップした。

(1) 近鉄奈良駅北側周辺～登大路町周辺地域の建物調査

この地域には、東向北町や花芝町等の駅前商店街を中心とした商業地域となっており、中筋町、大豆山町の通りについては、駐車場が多く存在する。大宮通り沿道については中小のビルディングが建ち並ぶ都市景観を形成しているが、沿道より内部においては、進入路が狭く敷地区画が小さいためなのか、商業地にしては建て替わりが進んでいないのが現状と言える。図版の1～4に示したように、以前より建っている町家を利用し商店を開いている店舗がかなりの部分を占めている。

東側の登大路町については、文化会館や県庁等の公共施設が建ち並ぶ官庁街として整然としたゆとりある景観を形成しており、北側の鍋屋町については文化会館や奈良観光等の目的に来た客用の一時預かりの駐車場が多く見られ、隣接する住宅地域に連続する地域として異質な景観を形成している。

(2) 奈良女子大学～半田横町周辺地域の建物調査

奈良女子大学の場所は、1613年に江戸時代を通して置かれた奈良奉行の跡地であり、明治42年に奈良女子高等師範学校として開校している。広大なキャンパスには現代建築の各学部等や体育館、講堂、運動場とともに昭和初期に建てられた佐保会館、特に記念館や校門、守衛室については開校当時に建てられた洋風木造の近代建築であり、奈良女子大学の景観イメージを形成している。道を挟んで半田横町にある学生寮は現代建築だが、門や塀については築地塀の和風でつくられ、洋風の正門イメージとは対照的に周辺環境に配慮されたものになっている。

(3) 南半田西町～今在家町周辺地域の建物調査

東の奈良街道、西の奈良女子大学、南の官庁街、北の佐保川に囲まれたこの地域は、沿道景観に比べ、落ち着いた住宅環境を中心とした町並み景観を形成している。図版1～7に示すように、一戸建や長屋建の木造町家を中心とする住宅の中に、周辺住民へのサービスを提供する商店が点在している。近年において、マンションやプレファブ住宅、スーパーマーケット等の進出により、町並み景観としての統一感が損なわれつつあるように思われる。

(4) 法蓮町～多聞町周辺地域の建築調査

法蓮造と呼ばれる大和棟の農家住宅が多くある地域であったようであるが、現在では点在している状態である。しかし、基本的にこの地域は古くからの農村地域であった関係で、町家の町並みにはない、ゆったりとした町並み景観を引き継いで来ている。

聖武天皇陵から多聞城蹟にかけては、緑豊かな景観が広がり、歴史的風土保存地区にも指定されている。周辺の住宅地については、多聞城の武家屋敷の町並みを今に伝えている場所もあり、良好な住環境と町並み景観を保持している。

多聞城蹟は現在、若草中学が建てられているが、この場所より東大寺方向への眺望景観は素晴らしいものがあり、観光資源としての活用についても視野に入れても良いのではないだろうか。

(5) 水門町～雑司町、北御門町周辺地域の建築調査

東大寺の西側は、かつて建っていた大門や中門、天平伽藍を今に伝える転害門、雑司町に至るまで、東大寺の寺域であった。この地域は古都保存法による歴史的風土（特別）保存地区に指定されており、国の政策の中で建築物や遺跡が周囲の自然環境と一体をなすような地区を目指しており、景観上最も重要な位置付けがされている地域でもある。

北御門町については、法蓮町と共通するような、農家住宅により構成された町並み景観であり、特に塀及び前庭の植栽のある景観は、良好な住環境をつくりだしている。

(1) 東向、花芝商店街周辺～登大路町周辺地域の建物調査

景観要素等	その概要、コメント	写真(デジカメ)
1.店舗(町家) 美容院 (東向 北町)	・東向商店街の一店舗、町家をうまく改修し、都会的なイメージの美容院になっている	
2..店舗(町家) スポーツ用品店 (東向 北町)	・町家の屋根をパラペットにより隠した古くからあるタイプの店舗	
3.店舗(町家) 西口鯉節商店 (花芝町)	・花芝通り商店街の一角、鯉節専門店 ・建物を修景し、老舗としての「なりわい」風景を保持している ・奈良まちかど博物館	
4.店舗(町家) 稲村商店 (花芝町)	・花芝通り商店街の一角、油脂製品日用雑貨卸を営む店舗 ・つし2階の伝統的町家は商店街にあって風格を感じさせる	
5.駐車場 NHK前モータープール (鍋屋町)	・文化会館や奈良公園に隣接したこの地域では、駐車場が多く、利用客へのサービスとして不可欠な存在	
6.公共施設 奈良県文化会館 (登大路町)	・この地域一体には県庁等公共施設が建ち並ぶ官庁街としての景観をつくっている	
7.公共施設 奈良県庁 (登大路町)	・鉄筋コンクリート打放しの外観は、隣接した奈良公園と対照的な景観をつくっている	

(2) 奈良女子大学～半田横町周辺地域の建物調査

景観要素等	その概要、コメント	写真(デジカメ)
1.奈良女子大学 門、記念館 (北魚屋西町)	<ul style="list-style-type: none"> ・明治42年に建築され、ハーフティンバーとよばれる洋風の美しい外観 ・国の重要文化財 ・奈良まちかど博物館 	
2.奈良女子大学 守衛室 (北魚屋西町)	<ul style="list-style-type: none"> ・守衛室は記念館と同じく洋風の個性的な外観 ・国の重要文化財 ・奈良まちかど博物館 	
3.旧駐在所 鍋屋連絡所 (半田横町)	<ul style="list-style-type: none"> ・洋風な建築イメージは奈良女子大学の近くにあって調和している ・景観重要建造物の指定候補 	
4.店舗(町家) 寺川商店 (鍋屋町)	<ul style="list-style-type: none"> ・古道具を扱う店舗で、奈良女子大学の洋風イメージと対照的な町家 	
5.佐保会館 同窓会館 (北魚屋西町)	<ul style="list-style-type: none"> ・奈良女子大学の同窓会館として使用 ・昭和の初期に建築され、大和の建築家、岩崎平太郎の設計による ・景観重要建造物の指定候補 	
6.民家 住宅 (坊屋敷町)	<ul style="list-style-type: none"> ・奈良女子大学の場所が江戸時代には奈良奉行がおかれていた関係か、そのなごりであろう、りっぱな門、塀を持った民家が隣接している 	
7.門、塀 学生寮 (半田横町)	<ul style="list-style-type: none"> ・江戸時代にあった奈良奉行所のイメージを思い浮かべられるような門と塀 	

(3) 南半田 ~ 今在家町周辺地域の建物調査

景観要素等	その概要、コメント	写真(デジカメ)
1.長屋 住宅 (北半田西町)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 伝統的町家の3軒長屋 ・ 景観建物として修復し活用 	
2.店舗(町家) いちのき菓子店 (北半田中町)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 平屋造りの町家、間口が狭く、両隣りが駐車場 ・ 景観建物として修復し活用 ・ 奈良まちかど博物館 	
3.塀と植栽 住宅 (北袋町)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 前塀、前庭型の町家で松などの植栽されている町家 ・ この地域の重要な景観要素 	
4.店舗(町家) 橋本洋傘店 (西笹鉾町)	<ul style="list-style-type: none"> ・ つし2階の伝統的町家 ・ 景観建物として修復し活用 ・ 奈良まちかど博物館 	
5.木造近代建築 天理教梅谷大教会 (西笹鉾町)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 元警察学校として建てられた木造の近代建築、岩崎平太郎の設計 ・ 景観重要建造物の指定候補 	
6.店舗(町家) 喫茶店 らんる (東笹鉾町)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 伝統的町家で、喫茶店に改修している ・ 景観建物として存続 	
7.長屋 住宅 (東包永町)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 伝統的町家の3軒長屋 ・ 景観建物として修復し活用 	

(4) 法蓮町～多聞町周辺地域の建築調査

景観要素等	その概要、コメント	写真(デジカメ)
1.大和棟の民家 住宅 (法蓮町)	<ul style="list-style-type: none"> ・法蓮造と呼ばれる大和棟で、前庭のある農家風の民家 ・景観重要建造物の指定候補 	
2.大和棟の民家 住宅 (法蓮町)	<ul style="list-style-type: none"> ・法蓮造と呼ばれる大和棟で、前庭のある農家風の民家 ・景観重要建造物の指定候補 	
3.町家 法蓮町会所 (法蓮町)	<ul style="list-style-type: none"> ・伝統的な町家 ・景観重要建造物の指定候補 	
4.史跡 聖武天皇佐保山陵 (法蓮町)	<ul style="list-style-type: none"> ・周辺には住宅が建ち並ぶが参道や御陵には植栽があり、緑豊かな景観 	
5.武家屋敷 住宅 (多門町)	<ul style="list-style-type: none"> ・築地塀に囲まれた民家、この地域は多聞城の武家屋敷の町並み景観が残る ・景観重要建造物の指定候補 	
6.武家屋敷 住宅 (多門町)	<ul style="list-style-type: none"> ・築地塀に囲まれた民家、この地域は多聞城の武家屋敷の町並み景観が残る ・景観重要建造物の指定候補 	
7.多聞城跡 若草中学校 (法蓮町)	<ul style="list-style-type: none"> ・多聞城の城跡に中学校が建っている ・高台になっており、ここから見る東大寺や若草山の眺望景観は素晴らしい ・眺望に関する景観協定の検討 	

(5) 水門町～高御門町周辺地域の建築調査

景観要素等	その概要、コメント	写真(デジカメ)
1.3階建民家 住宅 (水門町)	<ul style="list-style-type: none"> 東大寺大門跡に隣接したこの建物は、以前は料亭として使用されていた 景観重要建造物の指定候補 	
2.築地塀 東大寺中門跡(焼門) (芝辻町)	<ul style="list-style-type: none"> 東大寺の中門跡の礎石と築地塀は、東大寺の方向を望む景観と町並み景観の結界をイメージさせる 	
3.国宝 東大寺 転害門 (雑司町)	<ul style="list-style-type: none"> 奈良時代に建てられた伽藍で唯一残る転害門は、鎌倉時代に改修され現在に受け継がれている世界遺産、国宝 	
4.近代建築 鼓阪小学校 (雑司町)	<ul style="list-style-type: none"> 昭和9年に建てられた職員棟と講堂で、転害門に隣接し、景観に配慮された美しい建物 景観重要建造物の指定候補 	
5.民家 住宅 (北御門町)	<ul style="list-style-type: none"> 前庭のある農家風民家 景観重要建造物の指定候補 	
6.大和棟の民家 住宅 (雑司町)	<ul style="list-style-type: none"> 奈良街道とは対照的な静かな農家住宅が建ち並ぶ景観を保持している 景観重要建造物の指定候補 	
7.民家 住宅 (北御門町)	<ul style="list-style-type: none"> 前庭のある農家風民家 景観重要建造物の指定候補 	

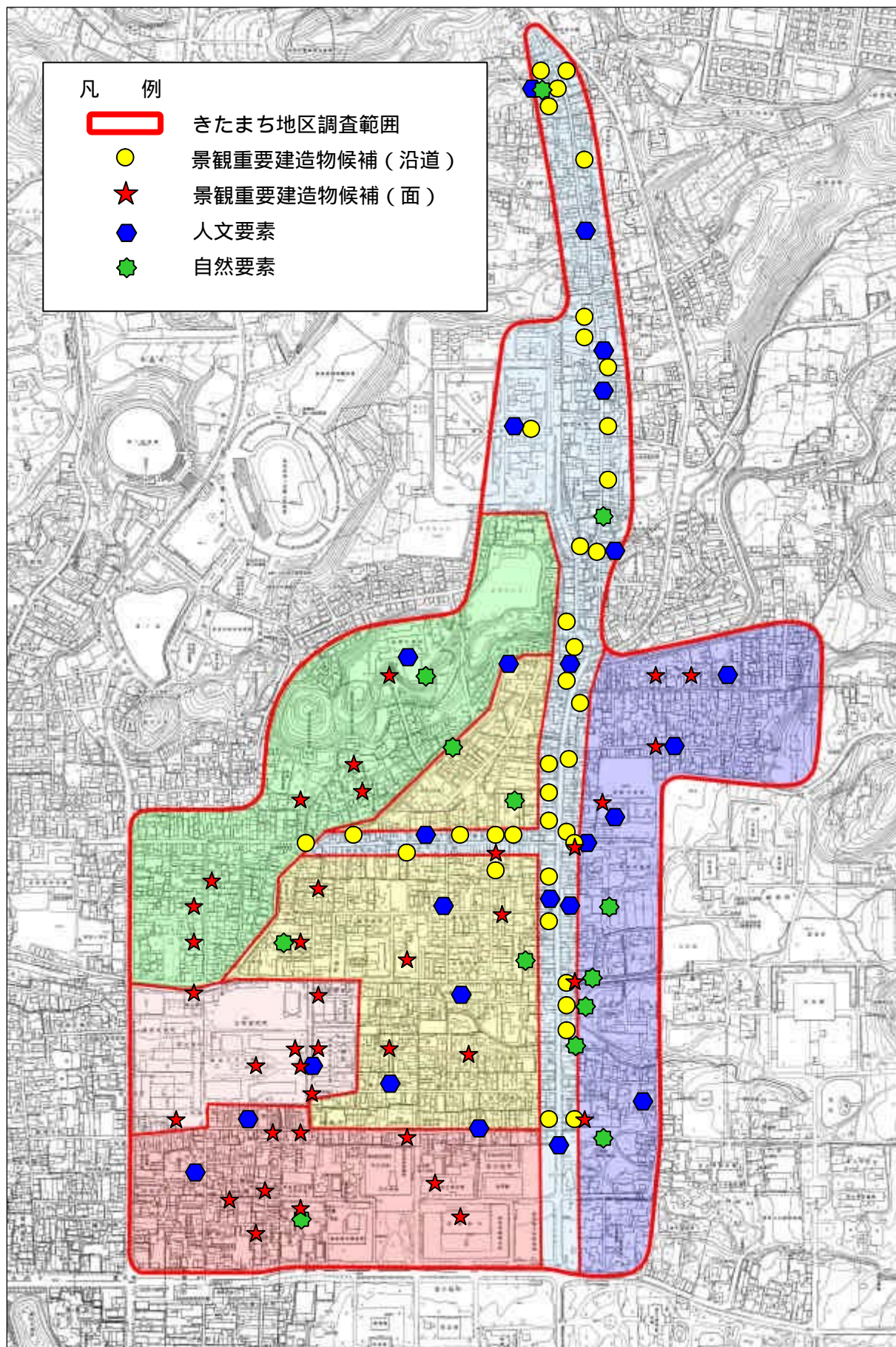
1 - 5 河川及び樹木等の自然要素の抽出

東大寺周辺や聖武天皇陵、多聞城跡周辺、佐保川流域については、歴史的風土保存地区に指定され、それに風致地域がかぶさり、自然環境と一体をなす古都における伝統文化の具現を義務づけられている地域になっているが、隣接する市街化区域から見た緑地や建物に付随する形で植栽されている樹木等景観上重要な自然要素をリストアップした。

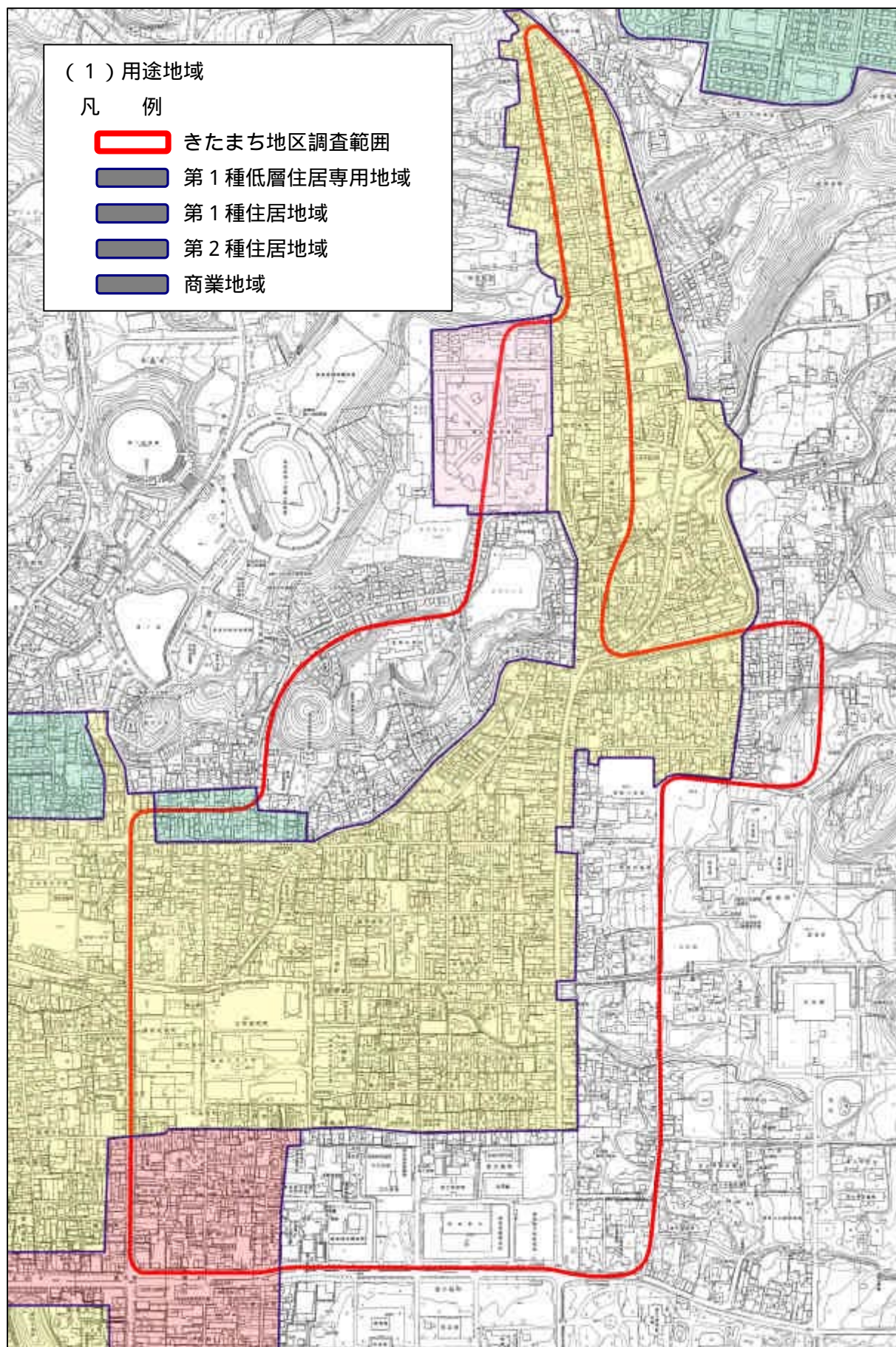
景観要素等	その概要・コメント	写真（デジカメ）
1. 佐保川 若草中学の南側付近	<ul style="list-style-type: none"> ・ 蛇籠護岸だが、土砂で覆われ自然の植生。 ・ 瀬と淵をつくりながら緩やかに流れる。 ・ 水質は環境基準以下。カワセミ、セキレイ、サギなどの鳥類、カワムツ、オイカワ、ヤゴなど水生生物も多い。 	
2. 吉城川 (押上町付近)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 石積み護岸と天然護岸。 ・ 瀬と淵をつくりながら緩やかに流れる。 ・ 奈良公園の鹿や観光による排水で水質はやや汚れている。 ・ 淵にコイが見られる程度。 	
3. 大樹 (雲井坂)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 東大寺西大門跡。 ・ 奈良街道の東側、後背は奈良公園・東大寺の樹林地。 	
4. 大樹 (押上町)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 祇園神社の裏山。 ・ 木の向こうは東大寺戒壇院がある。 ・ 奈良街道の東側、後背は東大寺の樹林地。 	
5. 大樹 (今小路町)	<ul style="list-style-type: none"> ・ レストランの裏山。 ・ 木の向こうは東大寺正倉院。奈良街道の東側。後背は東大寺の樹林地。 	
6. 大樹（クスノキ） (今小路町)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 東大寺中門跡の西側。 ・ 奈良公園中央病院内の樹木。 ・ 奈良街道の西側。かつて祇園神社があったところといわれる。 	

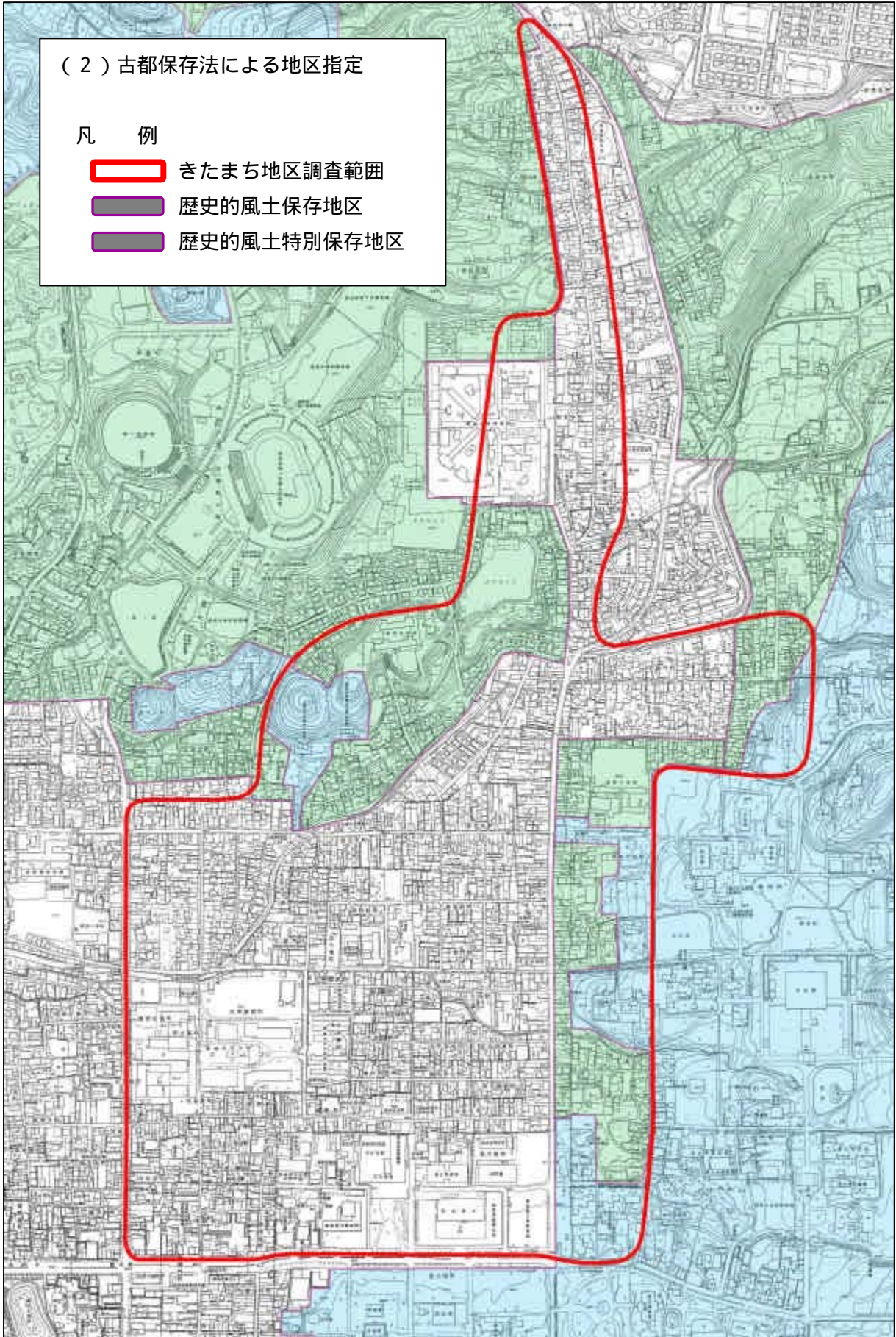
<p>7. 大樹 (今小路町)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ひのり商店の裏。 ・6 . に隣接。奈良街道の西側。 	
<p>8. 大樹 (手貝町)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・奈良街道の西側、手貝包永の刀鍛冶場があった付近。 	
<p>9. 大樹(クスノキ) (奈良阪町)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・奈良豆比古神社。 ・樹齢1300年。 	
<p>10. まちなかの前栽 (奈良阪町)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・きたまちにはこうした前栽が多く見られる。 	
<p>11. 多聞山 (多門町)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・多聞山城があったところ。きたまちの北の緑地 	
<p>12. 大樹 (登大路一番町北通り)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・奈良カトリック教会正門前 	

1 - 6 人文要素、建造、工作物、自然要素の分布状況



1 7 用途等の地区・地域指定の状況





2 奈良きたまち地区の住民意識等の把握

2 - 1 第1回ワークショップの議論概要

日 時：平成 17 年（2005 年）1 月 8 日（土）午後 2 時～
場 所：奈良街道まちづくり研究会・事務所（今在家町 51 - 1、電話 0742-27-5443）
参加者：奈良女子大学生生活環境学部の増井先生
奈良県都市計画課の長谷部さんと吉川さん、奈良市景観課の中沢さん
奈良街道まちづくり研究会の山口、磯部、谷、金剛、永井、田中、種野
社団法人奈良まちづくりセンターの上嶋、宮本

（1）奈良きたまち地区の景観づくりに関する調査の概要について

今回の「奈良きたまち地区における景観形成の推進のための調査」業務と助成応募の際につくった企画書の簡単な紹介、説明。

これまで進めてきている景観現況調査などの簡単な中間報告。

（2）奈良きたまち地区と奈良女子大学との関係などについて（増井先生）

奈女大は大学周辺の「きたまち地区」を研究対象としては見てきたものの、地域との関係や触れ合いなどについては関心が薄い。学生が 300 人ぐらいいは、この地区に下宿しているのだが。

これまで、きたまち地区に関しては様々な研究をしてきたが、学会に報告をするものの、地域に対して発表したことはない。その一覧表すら作っていない。ほとんど外部に発信していない。このような閉鎖性は打破される必要がある。

奈女大の周囲には学生街ができないのは不思議だ。韓国ソウル市の梨花女子大学周辺はそれなりに「学生のまち」が形成されているが、その要因には、学生数が少ない、学生が地味、余り消費しないなどがあげられる。

2003 年から、4 年生の設計演習にきたまち地区を取り上げ、卒業設計展なども行ってきた。学生がきたまち地区に対して抱くイメージやアイデアなどには、次のようなものがある。

きたまち地区には色々なものがあり、非均質な所である。昔の鍛冶などの伝統産業がある。

前栽などの緑のあり方が面白い。道路前方の眺望など、遠景がある。地域に出入りする大工さん達がいる。格子のこもれびなど、夜の景観が良い。学生は、異空間としての大門市場にとっても興味がある。2003 年の設計演習事例の紹介をいただく。

増井先生の私見、「きたまち地区」の景観整備方向などについては、元興寺界隈の奈良町とは違う。東大寺郷の街路構成、骨組み、道路と家の関係など、独自の歴史性と空間構造がある。東大寺が後背にあり、町の人達が自分達の庭のように考えているのが面白い。まちに大学と学生との関係がある。ここは「ほんもの」が残る町、生かせる町である。ただ和風であれば何でも良いといった安易な修景が増えているが、地域の独自性（個性）にもっとセンシティブであるべきだ。

（3）奈良きたまち地区のまちづくりなどについて

昨年 12 月 11 日に放送された奈良ドット FM のどっと・きたまち第 3 回「きたまちの風景をスケッチ！」の概要の紹介。別紙にその概要などの紹介。

景観法に基づき想定した、奈良きたまち地区の景観計画（試案）景観形成の基本方針（案）景観協議会の想定などを説明する。別紙にその概要を紹介。

（４）奈良きたまち地区を美しく、元気にするためのフリートーキング

きたまち地区の景観づくりの大きな方向性としては、「そろえることを目標とせずに、良いものを残して行く」という考え方に立つ方が良いように思う。

奈良街道の電線地中化事業においては、現況歩道 2.5m（車道幅員 8m）を歩道 3m（車道幅員 7m）にする案もあったが、沿道のサービス問題などより現況幅員のままになった経緯がある。

先に景観協議会の話があったが、きたまち地区では、佐保川の自然を守る協議会（自治会連合）が誕生している。

説明された奈良きたまち地区の景観計画（試案）景観形成の基本方針（案）は、奈良市がどこまで諒解して作っているのか？市とは直接関係なしにこちらで独自に考えている。

市としては、以前にきたまち地区における景観条例などのことで地元に出かけ、お話をしたことがあるが、地元の関心は薄く、それ以上に進展しなかったという経緯がある。

景観というどうしても「規制」という風に理解される。今回の景観法の主旨は、従来のような規制ではなく、自分達が守りたいものを守る、与えられるものではなく住民の主体性の発露、結果を重視するという点にある。

「花より団子」という言い方があるが、この度の景観形成については、美しい花が咲いている所で食べる団子は、一層美味しくなる。という意味あいだと思う。

景観行政については、上からの押し付けると逆効果になる。地域・住民からの発意や考えなどに基づかないと意味が無いし、計画づくりはできない。

きたまち地区の住民の意向（気持）としては、何か新しいことをやる、新しいことを受け入れるのは苦手である。「このままで良いじゃないか」と言われそう。つまり、きたまち地区ではそんなに困っていることはない。現状維持で良いなど、かなり保守的な面が強い。

きたまち地区のある範囲で、まちづくりに関してまとまる、つまり協議会を立ち上げるというのは至難の業だと思う。きたまち地区は、住民の意向をまとめるのが嫌い、苦手な所である。

景観づくりの心情や気持ちに訴える前に、儲かるとか得をするとか、実利につながるまちづくりを進める必要があるのではなからうか。

きたまち地区における「景観づくり」、「景観計画」は難しそう。地域の皆さんで議論するような形がとり難いようだし、地域の主体性に任せると何も動き出さないような気がする。従って、企画書の第3章の景観計画までは行けないかもしれない。しかし、第1章の現況調査と第2章の地域の人達の意向把握・ワークショップぐらいはまとめなければならない。

1. はじめに

2. 既往研究

住まい方調査/町並み調査/」町家の維持管理の調査

卒業設計：サテライトキャンパス/町家を活用した高齢者施設/ソーホー/佐保川の再生

3. 2003年からの取り組み

設計演習 4年次 「伝統的市街地にたつ複合施設」

地域貢献事業 奈良県・奈良市と連携「奈良町の町並み保存支援」

学内プロジェクト 「キャンパス・プロジェクト」

4. 学生のイメージとアイデア

- ・非均質性（奈良きたまち地区には色々なものがある）
- ・伝統産業（金属関係や地域出入りの大工さん）
- ・緑のあり方（前栽が大きい）
- ・遠景（後背の借景、眺望、アイストップ等）
- ・イベント
- ・夜の景観（夜になると格子からのこもれびが美しい）
- ・異空間としての大門市場

5. 私見としての奈良きたまち地区の景観整備の方向性

- ・いわゆる「奈良町」との違い
- ・歴史性・空間構造の違い
- ・街道筋と後背市街地・東大寺との関係
- ・大学や学生との関係
- ・「ほんもの」が残る町、活かせる町

2 - 2 第2回ワークショップ（中間報告）の概要

日 時：平成 17 年（2005 年）2 月 11 日（祝）午後 2 時～

場 所：奈良文化会館・第 3 会議室

参加者：合計 16 名

（1）奈良きたまち地区の景観づくりに関する調査の進捗と中間報告

「奈良きたまち地区における景観形成の推進のための調査」報告書の概要説明

報告書の目次、第 1 章の景観要素の抽出の説明

- ・軸（通り）を構成する建造物要素 1 のスライドによる紹介
- ・面を構成する建造物要素 2 のスライドによる紹介

第 3 章の景観計画に関する中間報告

- ・奈良きたまち地区の特性と課題（問題点）
- ・奈良きたまち地区の景観形成の基本方向
- ・景観形成ゾーンの基本的な考え方と施策等

元信用金庫建物の取り扱いと利活用計画等について

- ・現況のスライド紹介及びCGによる建物修景、除却した際の転害門周辺の様子

奈良きたまち地区を取巻く用途地域・地区の条件と元信用金庫建物の利活用計画案について

（2）フリートーキング（参加者からのご意見等）

奈良きたまち地区は奈良町ではあるが、南の奈良町とは違う面がある。生活を維持しながら「まちづくり」を進める必要がある。とても封建的な所があり、例えば、空き家になっても家を貸さずに結局、駐車場にしてしまっているとか、少子高齢化で、ある町内では今年の 1 年間に亡くなった人は 13 人、生まれた子供は 1 人という状況を呈している。

元信用金庫の建物をまちづくりの活動拠点にする構想は良いと思う。しかし、その際のランニング費用をどうするかは問題である。伊賀上野に最近出来た「町家未来センター」では、会員をつのり個人及び法人の会費を集めている。また、不足分はイベントなどでお金を集めている。

転害門横の建物については、残さずに除却して広場とし、門前の緑地と一体的に広場を広げる考え方もある。現状の広場はイベントをするには狭過ぎるし、町並みとしても余裕がない。

「まち」の余裕について、一般論はない。地域によってそれぞれ違う。奈良街道と建物の相関、イベントと広場及び転害門の関係などについて勉強する良い機会だと思う。色々な提案を受けて、イベント広場の可能性や通りと広場のデザインなどを検討する必要がある。

三条通りの夜 7、8 時はひっそりとしている。町をつくりかえる必要がある。町の個性やアイデンティティはとても重要である。三条通りやこの奈良街道には「奈良らしいゆとり」が欠けている。この「ゆとり」こそがならのアイデンティティだと思う。

一条通り×奈良街道部を結節点というが、一条通りは単なる普通の道路だし、転害門は車で行くから見落とし通り過ぎてしまう位である。町の結節点なら結節点らしく、転害門周辺はまちの「ヘソ」として、そこに行けば「きたまち」の事は全て解るなど、中心性を付与する必要がある。

奈良きたまちの問題は、人が行く導入路がない、観光用の駐車場がない、行くための交通手段が無い、ということに要約される。

観光の拠点になる場所（観光拠点）を何箇所か設け、まずはこの点の部分で稼ぎ、更にそれらを結びつけるルートづくりなどを行う必要がある。

「きたまち」をどういうまちにしたいのか？何を売り物にするのか？単なる奈良町ではない奈良町づくりをしてほしい。その方法は、導入路、拠点整備、ネットワーク化、面整備という手順である。

ベロタクシーをやっていて、「きたまち」へ行ってくれという人は、100人の内、3人位あるかないかだ。つまり、「きたまち」を知っている人は自分で歩いてゆくだろうし、多くの観光客は「きたまち」のことを知らない。

旧信用金庫の建物を残してNPOで運営するということは、何となく息苦しかった。勿論、出来れば残して使いたいのだが。今日、取り壊して広場にしたら良いという提案を聞いて、随分、気持が楽になった。

奈良街道×一条通りの転害門一帯は、今日、奈良きたまち地区の象徴的な「ヘソ」のような場にはなっていない。これからは「景観としても心地の良い」シンボリックな空間にして行く必要がある。

2 - 3 ならきたまち地区・まち歩きスケッチの概要

どっと・きたまち 第3回 (ならどっとFM H16.12.11放送)

案内人：奈良街道まちづくり研究会 山口育彦・小室桂

お客様：奈良まちづくりセンター：宮本孝二郎・上嶋晴久

近鉄奈良駅から中筋町～大豆山町

小室：少し寒いですが、きたまちの景観についてお話しを進めていきたいと思います。

山口：中筋町は江戸時代はじめに糸屋宗仙が奈良漬けをはじめたところです。

宮本：町の名前が面白いですね。町屋が数軒残っていますね。奈良風なのですが、ちょっと京都っぽい粋な数寄屋風な感じがありますね。法蓮格子的なものだけじゃない。

上嶋：駐車場が多いですね。これは仕方がないですね。ただ残っている町屋で数軒新しい展開をしている店ができており、将来的には面白い町になっていくのかなと思いますね。

宮本：車が多すぎるのは問題かもしれませんね。

小室：ここの道は、車にとっても人にとっても通りにくいですね。もうちょっと何とかならないでしょうか。

上嶋：NMCの時は駐車場をよく使わせていただきました。

女子大南門～坊屋敷町～宿院町～花芝町

山口：まちかど博物館のかつおやさんの前に来ました。この辺りも古い町並みが残っていますが。

宮本：この通りが昔の二条通りで36mあったとは想像できないですね。町屋も何軒か残っていますし、面白い通りですね。

上嶋：NMCで住まいづくり相談室をしていたとき来たことがある。路地の奥に奈良女の学生さんの借家が点在しています。通りの建物は太い格子があり田舎のイメージをまだ残していますね。

女子大前の通り

山口：交番の所には奉行所の黒門があり、黒門通りと言われていました。

奈良女子大構内

宮本：この辺は奈良の古い歴史のなかでも近代建築が多いところですね。そういう意味で面白いところ。昭和の歴史のことを言うと、奈良女子大の門の横に天皇をお祀りした奉安殿がありますね。女子大の建物のデザインが面白いですね。山本治平さんの設計らしいですが、遊園地のような面白い建物だと思います。

山口：女子大の詰め所も面白いですね。

宮本：しかめっ面らしくなくて楽しく、雰囲気がいいですね。

小室：かわいいですね。これが良くて入学したようなものですよ。

上嶋：昔ここが奉行所で、通りは瓦が載った塀が似合っているなという反面、奈良女子大があるので近代建築が似合う。2つの町が入り乱れるちょうどいい具合のミスマッチがあるような気がし

ますね。

交番は女子大の建物と相応していますね。うまく利用して、残していきたい気がしますね。

山口：観光案内や防犯の見張り場所として活用したいですね。

南半田町～油留木町

小室：寺川道具店のところを東へ、半田町に向かっていきましょう。

山口：半田町のまちなかを歩いてきましたが、レトロ調の判子屋さんや写真屋さんがあったり、この
界隈は昔ながらの町がまだまだ残っているところです。

宮本：この辺はもともとは生活の中心拠点ですよ。商店や事業所がいっぱいあり賑わっていました。

今は住宅街ですが、昔の歴史を見直してみると住むことがまた楽しくなってくるのかもしれない
ですね。そういうことも踏まえてちょっと考えてみたいですね。

この辺の通りの東を見ると、東大寺がアイストップになっていますね。まちの景観の特徴です。

上嶋：県庁に近いので駐車場が多いですね。必要なものであり今後も無くならないですね。まちの景
観を考えると、駐車場と町並みを調和させる工夫があればいいですね。

押上町～今小路町

山口：やっと奈良街道に出てきました。現在、電線類の地中化工事が行われています。近々見違える
ような景観になるはずですよ。

宮本：上嶋さん、この町屋で壁が黒いのはどういうことなんですかね。

上嶋：商家ではよく見られるんですが、漆喰に墨を入れて塗っていくんです。最後に手の油で光らせ
たりするんですが、そこまでいくと最上の仕上げなんですね。

宮本：白い漆喰よりも黒いほうが見栄えが良いということなんですかね。

上嶋：黒いのは大きな商家によく見られますよね。

今小路町～手貝門前

宮本：奈良街道には古い町屋がけっこう多く残っていますね。ちょっと奥には木造三階の古い旅館が
あったり、空き家になっている建物などいっぱいありますね。いずれも老朽化が進んでおり、
そろそろ立て替えの時期なんですね。奈良街道は経済要素がある通りですから、ただただ昔の
ままで保存するわけにもいなくて、新しい力をどうやってうまく取り入れながら昔の保存す
べき良さを残していくのか考えていけないといけませんね。地中化にあわせて周りの建物をど
ういう風にしていくのか、杓子定規に保存するのじゃなくて、あたらしい創造的な要素も入れ
ながら保存を考えないとうまいかないのじゃないかと思えますね。

上嶋：雲井坂から手貝門まで歩いたのですが、東をふっと見ると奈良の山の木が見えるんですね。焼
け門なんかでも奈良らしい景色が残っています。町並みは新旧の建物が混在していますが、ち
よっと入ると、昔の奈良のままの景色が残っているところが印象的です。手貝門もそうですね。

山口：手貝門の北側に旧南都銀行の古い建物が残っています。奈良市が買い取って活用考えていると
ころです。

宮本：なかなか良い建物ですよ。良いロケーションだから大勢の人が使うような施設になると良い
ですね。観光客を考えるあり方もあるでしょうし、まちづくりセンターのような使い方もある

でしょうね。できるだけ今ある財産をうまく活かすような使い方を考えてみたいですね。

山口：ちょうど、手貝門はきたまちの「おへそ」のような位置ですしね。

上嶋：建物はお金をかければ修復できますが、この建物はお金をかけずにNPOの拠点といった使い方を考えると、奈良街道まちづくり研究会が中に入って拠点にするのが理想的ではないですか。

北御門町～北御門町

小室：ずいぶん雨で大変ですね。

山口：本当に！

宮本：まち中の景観づくりはどちらかというと住宅よりもお店なんですけど、たぶんこのきたまち地区では住宅景観あるいは生活景観をどうするのかをかんがえる必要がありますね。この辺りは住むには条件の良いところだし、東大寺の裏という歴史的環境も考えながら、いっぼうで生活の景観づくりをどうしていくのか考えていくことになりそうです。

上嶋：この辺りを歩くと大和棟の建物が結構残っていますよね。農家住宅ですが、今は農家の生活パターンが無いわけですから、景観を守っていくのは本当に難しいと思います。奈良すべてに言えることですが、実際自分が守っていくのだという意識がないと無くなってしまいますね。跡には住宅メーカーの建物が建ってしまう。ただ、風致地域がかかっている、行政で変な建物は建たないと言うのがすくいですね。行政ではデザインコントロールできないわけですから、住民があるべき景観を考えて、協定をつくっていかないといけないんじゃないかと思いますね。

一条通り

山口：阪本曲斎さん、向出醤油、畑里鹿角工芸など、まちかど博物館があり、職人の町です。一条通りでは東には手貝門が正面に見えます。

宮本：一条通りの東半分はまだまだ古い家が多いですね。手貝門のアイストップもありますし、ここはなかなか貴重なところですね。奈良で平城京の道路で古い雰囲気が残っているのは少ないですから、大事にしたい気がします。

上嶋：昔一条通りを歩いていて手貝門に突き当たった経験があります。手貝門の景観を知っている人は奈良の中でも少ないんじゃないですか。かけがえのない景観であることをPRしないとだめですね。周りの景観と一体となった手貝門であると思います。

北半田町 いちのき飴店

小室：日も暮れてきました。この辺でまち歩きも終わりにしたいと思います。

山口：手作り飴でまちかど博物館に参加してもらっています。

宮本：最後に温かいお店で締め言葉と言うことで、ありがとうございます。景観づくりはこれからです。魅力的で美しい町には間違いなくこれから人が集まってくるから、景観づくりを大事にしてまちづくりを進めていきたいと思っています。きたまちはいろいろな魅力があるところですからそういうものを活かして活きたいと思っています。

上嶋：今日はありがとうございました。まちの魅力は、歴史的なものや旧蹟いろんなものが複合していると思いますが、ひとつ言えるのは、そこに住んでいる人間の魅力が欠かせないと思いますね。奈良町ではまちの人の魅力がある。まだ僕はきたまちな人の魅力はこの飴屋さん以外は味わっていないんですね。たぶんいろんな人がいっぱいいると思います。いろんな人を発掘する

ことによって、また、いろんな人がまちの景観をどう認識していくかで、まちの魅力が発掘されていくと思いますね。

山口：今日はありがとうございました。まちの景観を、いろんな人の意見を盛り込んで活用して行けたらと思います。

小室：みなさん、ありがとうございました。



雑司町



今在家町の向出醤油

(文責：奈良街道まちづくり研究会 金剛一智)

(編集スタッフ：八田耕治・辻村友秀)

3章 奈良きたまち地区の景観計画

3 - 1 奈良きたまち地区の特性と課題（問題点）

奈良きたまち地区は、古くから東大寺郷として、また京都からの玄関口として、旧奈良街道の街道筋を中心に商工業や旅籠が栄え、大変活気のあるまちだった。この地区には、奈良時代の転害門、鎌倉時代の刀鍛冶、室町時代の南都八景、戦国時代の多聞山城、江戸時代の奈良奉行所、明治時代の奈良女子大学など、歴史的な地域資源等が 1300 年の間に数え切れないほど堆積している。このように大変豊富な地域資源を持つ地区であるが、改めて、この地区の「特性」及び地区が抱える「課題（問題点）」を整理すると、次のように考えられる。

奈良きたまち地区の「特性」

- (1) 歴史遺産や伝統的な建造物がとても多く、東大寺の境内を町の一部のように親しんでいる。
- (2) 古くからの町中・市街地であるが、佐保川や吉城川などの貴重な自然環境が残っている。
しかし、近年は春日山の保水力の減少及び地下水脈の切断などにより、水量が減っている。
- (3) 古くからの人情や風習などが残っている。
- (4) 沿道には、軒うだつや黒漆喰の壁を持つ建築様式の建物（戦前の近代町家建築）が存在する。
- (5) 大変多くの地蔵さんがある地域である。
- (6) 地形がフラットで、昔からの町中、商店や病院なども近くにあり、生活がしやすい。高齢者が暮らしやすく活動しやすいところである。
- (7) 元来、東大寺郷ないしは城下町の職人町であり、伝統的な職人や著名人等が生活している。
- (8) 古くからの懐かしい町名がそのまま引き継がれている。
- (9) 南都八景の内、「雲井坂の雨」、「轟橋の行人」、「佐保川の蜩」、「東大寺の鐘」の4景がある。
- (10) 転害門や般若寺、多聞山城跡、奈良少年刑務所など、数多くの名所旧跡がある。

奈良きたまち地区の「課題（問題点）」

- (1) 少子・高齢化が進み、町に活気がなくなってきた。
- (2) 空き家や空き地、駐車場などが増えてきた。
- (3) 商売をやめるお店が増え、まちに賑わいが失せてきた。（大門市場の空き店舗化など）
- (4) 従来型の伝統的なコミュニティがなくなってきた。
- (5) 夜間は照明が少なく、ちょっと怖い感じのするところがある。
- (6) 国道（奈良街道）は、朝夕ラッシュ時には車が渋滞し、沿道での商売は成り立たない。
- (7) 将来、子供達がこのまちに住むのかどうか疑わしい。不安である。
- (8) 古い建物などが多いにもかかわらず、保存計画がなく、古い良いものを取り壊されている。
- (9) きたまち地区に関して、行政からのまちづくりの考え方や提案はない。
- (10) 地元住民が誇りを持って取り組むような行事や祭りなどが無い。
- (11) 観光資源が豊富なのに、パンフレットなどでPRをしていない。近頃やっと、奈良まちかど博物館を紹介するパンフレットが発行された。
- (12) 子供達が安心して遊べる場所が少なくなってきた。
- (13) 色々の面で、防災上の対策や整備が遅れている。

次に、この総論的な「課題（問題点）」に対して、ゾーン単位で個別に特性や課題を眺めてみると、以下のように考えられる。なお、地区内のゾーンとしては、奈良街道沿道、奈良坂・般若寺付近、一条通り沿道、雑司・北御門付近、奈良女子大付近、佐保川・多聞山城付近を想定した。

奈良街道沿道（押上町、今小路町、手貝町、今在家町）の特色

テーマ	課題、問題点の内容
1.高齡化、空き家等	<ul style="list-style-type: none"> ・ 少子、高齡化が進んでいる ・ 空き店舗が増えている、大門市場の空き店舗が目立つ ・ 転害門横の元信用金庫（市買収済）の空き家の利活用
2.活気、にぎわい等	<ul style="list-style-type: none"> ・ 活気や賑わいが減じている ・ 朝夕の通勤時には交通渋滞する程だが、商売は成り立たない
3.コミュニティ等	<ul style="list-style-type: none"> ・ 道路沿いに個人駐車場が増えている
4.まちの資産、資源等	<ul style="list-style-type: none"> ・ 南都八景（雲井坂、轟橋、東大寺の鐘、佐保川の蛸） ・ 転害門、東大寺焼門、祇園八坂神社、八鉄神社等 ・ 軒うだつや黒漆喰の近代町家（松井家、向出醤油等） ・ 街道筋の旅籠街、沿道宅地の奥には街道に沿って榎の大木があった ・ 吉城川、佐保川の石橋
5.まちのプラン等	<ul style="list-style-type: none"> ・ 県により電線・電柱の地下埋設事業が進んでいる ・ 平成 17 年には、舗道面整備について地元と協議が始まる ・ 道路拡幅の都市計画決定が残っている

奈良坂、般若寺付近の特色

テーマ	課題、問題点の内容
1.高齡化、空き家等	<ul style="list-style-type: none"> ・ 少子、高齡化が進んでいる
2.活気、にぎわい等	<ul style="list-style-type: none"> ・ 戦前戦後のにぎわいなどを今では想像できない状況である
3.コミュニティ等	<ul style="list-style-type: none"> ・ 古くからの穏やかなコミュニティ
4.まちの資産、資源等	<ul style="list-style-type: none"> ・ 般若寺、奈良少年刑務所、西福寺、奈良豆比古神社 ・ 伝統的な法蓮格子の町家、水道局施設、水道計測器場等 ・ 植村牧場、瓦道等、奈良まちかど博物館（3 件）
5.まちのプラン等	

一条通り沿道（東包永町、西包永町）の特色

テーマ	課題、問題点の内容
1.高齡化、空き家等	<ul style="list-style-type: none"> ・ 高齡化が進んでいる、空き家が多い
2.活気、にぎわい等	<ul style="list-style-type: none"> ・ 転害門～千石橋までは店舗が多かったが、今は数が少ない ・ 最近、スーパーのビッグ奈良が出店
3.コミュニティ等	<ul style="list-style-type: none"> ・ 伝統的なコミュニティ、自治会
4.まちの資産、資源等	<ul style="list-style-type: none"> ・ 刀鍛冶包永に始まる鍛冶の町 ・ 石橋の千石橋、一条通りの東方向アイストップに転害門が見える
5.まちのプラン等	<ul style="list-style-type: none"> ・ 道路拡幅の都市計画決定が残っている

雑司、北御門付近の特色

テーマ	課題、問題点の内容
1.高齢化、空き家等	
2.活気、にぎわい等	・閑静で良好な住宅地
3.コミュニティ等	
4.まちの資産、資源等	・五劫院、鼓阪小学校講堂、空海寺 ・武蔵美術大学の奈良寮、民間ペンション ・昔から東大寺と縁の深い雑司町
5.まちのプラン等	

奈良女子大付近（半田町、笹鉾町、一条通りの南）の特色

テーマ	課題、問題点の内容
1.高齢化、空き家等	・高齢化が進んでいる、空き家が多い
2.活気、にぎわい等	・昭和40年前後までは、商店や職人（大工、工房等）が並ぶ生活の賑わいが漂う町であった ・学生街が生まれないのが不思議である ・県庁の直裏には、奈良公園観光用の民間駐車場が並ぶ
3.コミュニティ等	・女子大の学生用賃貸住宅が増えている
4.まちの資産、資源等	・奈良女子大記念館、正門、守衛室、佐保同窓会館、奈良奉行所跡 ・女子大前の交番、県警察大学（現天理教） ・念声寺、普光院等 ・半田座という絵師工房や銀工彫刻の後藤町、鋳物鍛冶の鍋屋町など、工房集団がいる職人町であった ・平城京の二条通り（道幅36m）
5.まちのプラン等	

佐保川、多聞山城付近（一条通りの北）の特色

テーマ	課題、問題点の内容
1.高齢化、空き家等	・佐保川沿いの元市営住宅用地が空き地になっている
2.活気、にぎわい等	・良好な住宅地、かつての条坊制を示す道路は無い（不規則な道路）
3.コミュニティ等	・佐保川の自然を守るNPOが誕生
4.まちの資産、資源等	・都市内唯一の佐保川の自然 ・近年、魚が住まなくなっているのが問題である ・一部に武家屋敷跡を示す一角がある ・多聞山城（若草中学） 聖武天皇陵
5.まちのプラン等	

3 - 2 奈良きたまち地区の景観形成の基本方向

地域の景観形成を検討するに際しては、景観面だけを取り上げて抽象的過ぎ、生活面や具体論として展開しにくい。従って、地域の(1)暮らし「まちづくり」や(2)なりわい「地域活性化」などを考慮しながら、(3)たたずまい「景観」について考える必要がある。

このような観点から、奈良きたまち地区の「景観形成」については、以下の3つの観点を同時併行的に考慮しつつ、景観整備計画(景観マスタープラン)を検討する。

(1) 暮らし「まちづくり」(住民主体、生活重視など)

基本視点	具体的な基本方向
徒歩生活圏の重視	<ul style="list-style-type: none"> ・車なしで生活が出来る徒歩生活圏の形成 ・利便性の高い都心は高齢者居住にふさわしい
自然環境との共生	<ul style="list-style-type: none"> ・都市内の自然(佐保川、吉幾川)の再生・保全・活用 ・緑や樹木、水などの潤いを求めるまちづくり
都市交通問題の対処	<ul style="list-style-type: none"> ・渋滞対策、車の進入制限、既設パークングの効果的な運用 ・無公害な自転車利用の積極的推進 ・小型のコミュニティーバスの導入
住民主体・市民参画	<ul style="list-style-type: none"> ・二月堂の竹送り行事、住民参加型イベント、景観協議会 ・色々なまちづくりグループ(NPO等)の胎動
安全・安心のまちづくり	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者が安全に安心して暮らせるまちづくり ・ハードだけに頼らない、ソフトなコミュニティの育成

(2) なりわい「地域活性化」(民間活力、観光と経済など)

基本視点	具体的な基本方向
競争力や国際性の付与	<ul style="list-style-type: none"> ・東大寺郷の歴史文化や奈良街道、多聞城下町の文化などの国際的な情報発信 ・奈良の旧中心地、商業・産業・事業の中心拠点性の再検討
民間投資と中心部の再生	<ul style="list-style-type: none"> ・まちなかルールに基づく民間資本及び民間活力の導入 ・積極的な自主運営や民間運営などの検討、外部との協働
都市型観光	<ul style="list-style-type: none"> ・多聞山城の復元計画、奈良の戦国時代情報のPR ・二月堂竹送り式などの参加型観光イベントの推進 ・奈良町奉行所の掘り起こし、江戸期の奈良町の発掘と資源化 ・町家を活用したお洒落な飲食店、ショップなどのオープン ・伝統工芸や産業などに着目(まちかど博物館の充実) ・小規模グループによるウォーキング観光のサポート

官民協働の都市運営	<ul style="list-style-type: none"> ・官民によるまちなか活性化機構（TMOなど）の設立 ・インセンティブや免税等による民間エネルギーの導入と誘導
まちなか資産の活用	<ul style="list-style-type: none"> ・空き家資産の利活用（元信用金庫建物の利活用による地域文化、都市型観光、まちづくりなどの拠点基地づくり） ・大門市場の再活性化（空きショップの活用、実験ショップの展開、高齢社会コミュニティ活動の場など） ・伝統的なお店（豆腐、漬物、畳屋、大工、造作、表具、鋳物、道具修理など）の復活と新たな今日的展開

（３）たたずまい「景観」（ 美の文化、地域らしさなど）

基本視点	具体的な基本方向
都市美の創造	<ul style="list-style-type: none"> ・奈良街道の電線地中化、道路空間の美化 ・国宝転害門周辺の総合的な景観整備 ・奈良街道と一条通り交差点のシンボル空間としての整備
歴史文化と生活経済との調和	<ul style="list-style-type: none"> ・旧奈良街道の生活と観光を意識した街路軸の整備 ・外部交流と地域生活を重視するニュービジネスライフの創出
地域らしさと個性の重視	<ul style="list-style-type: none"> ・５つの景観形成ゾーンの設定 奈良街道と一条通り、T字交差点の「歴史景観形成ゾーン」 雑司町屋北御門町の「住宅街景観形成ゾーン」 旧奈良街道の「都市型観光・生活軸景観形成ゾーン」 多聞町や法蓮町の歴史と文化、生活が織りなす「住宅街景観形成ゾーン」 半田町や笹鉾町の「まちなか景観形成ゾーン」
観光や地域活性化への配慮	<ul style="list-style-type: none"> ・交通案内や道路標識、観光案内、看板などの美化と整合化 ・奈良まちかど博物館の展開、人間味のあるビジネスの推進 ・豊富な観光資源のリストアップと個々のシェイプアップ ・地域生活と外部交流が重なる都市型観光施設の整備
住民・事業者・行政の協働	<ul style="list-style-type: none"> ・キーポイントは住民主体、事業者の協力、行政の施策支援の三者合意による事業推進 ・住民の共同合意と地域生活などが支える奈良きたまち地区の景観形成づくりの推進

「景観法」に基づく「奈良きたまち地区」の景観整備方向

景観法による景観計画内容	奈良きたまち地区の景観整備計画の方向
1) 景観計画（景観行政団体） 良好な景観形成の基本的な方針 行為の制限に関する事項等を定める計画	1) 奈良市による景観計画の策定
2) 景観計画区域の指定 ・建築等の届出・勧告による誘導措置 ・デザインや色彩の条例による変更命令可 ・命令違反に対しては代執行、罰則で担保	2) 今回調査対象の奈良きたまち地区全域程度
3) 景観地区の指定（都市計画） ・デザインや色彩の制限 ・高さや壁面位置、敷地面積の制限 ・上記違反に対しては建築確認で担保 ・土地の形質変更などの条例による規制	3) 奈良街道沿線（県庁～佐保川石橋）と一条通り沿線（転害門～法蓮橋）のT字型地区
4) 景観重要建造物（建造物・工作物の保全） ・現状変更については許可が必要 ・建築基準法による制限の緩和 ・相続税の適正評価（調整中）	4) 転害門、八坂神社祇園社、近代町家（松井家、中村家、稲田家、元信用金庫、辻本家、向田醤油店、連続する空き家、倉本家、等々） ・鼓阪小学校の講堂、空海寺、細田家住宅 ・北山十八間戸、般若寺、奈良少年刑務所、西福寺、奈良豆比古神社、等々 ・奈良女子大学旧本館と門衛舎、元警察学校等
5) 景観重要公共施設の整備 ・道路や河川、都市公園の整備 ・電線共同溝の整備の特例	5) 奈良街道、一条通り、旧奈良街道の石橋 ・佐保川、吉城川 ・多聞山城跡、聖武天皇陵
6) 景観重要樹木の指定	6) 楠木や榎木の巨木がある ・奈良豆比古神社の楠木、奈良市巨樹等の保存及び緑化に関する条例により指定された楠木、等 ・奈良街道に沿っては榎木の巨木があった
7) 屋外広告物に関する制限 ・屋外広告物に関する条例の策定 ・原稿に於ける簡易除却対象の追加 ・屋外広告業の登録制度	7) 立看板、はり札、広告旗等の簡易除却 ・店舗看板の大きさ、色彩等の規制
8) 景観協議会と景観協定 ・景観協議会の協議事項の尊重 ・景観協定は住民の全員合意による	8) 奈良街道及び一条通りの沿道 ・旧奈良街道（佐保川石橋～奈良坂）沿道 ・雑司町、北御門町の界限 ・多聞山城や奈良坂からの眺望確保 ・佐保川の再生、自然環境の確保
9) 景観整備機構の指定 ・地域のNPO法人や公益法人を指定 ・景観重要建造物や景観重要樹木の管理	9) 奈良街道まちづくり研究会 or 他のNPO ・空き家の近代町家の修復・利活用・運用 ・奈良まちかど博物館の運営コーディネイト

3 - 3 奈良きたまち地区の景観整備計画（案）

奈良きたまち地区の「景観整備計画」については、地区内の歴史的な主要街道や様々な景観要素、コミュニティのまとまり状況などを考慮して、5つの景観形成ゾーンと佐保川及び吉城川の自然景観ゾーンを設定した。各ゾーンの基本的な位置づけや整備施策、景観重要物の候補などは、以下の表の通りである。これらを踏まえ、奈良きたまち地区の景観に関する総合的なマスタープランとして、今後の検討や議論のたたき台になるよう、とりあえずの「景観整備計画」を「案」としてまとめた。

（1）奈良街道及び一条通の「歴史的景観形成ゾーン」

視 点	そ の 内 訳
基本的な位置づけ	京の都に通ずる古道及び転害門等の歴史文化、街道筋・旅籠街としての賑わいや情報の受発信地、高度経済成長期までの奈良の一大拠点としての商業集積など、奈良町を代表するまちの履歴をもつ。 奈良きたまち地区の「中心・ヘソ」的なゾーンである。 伝統的な街道筋の沿道景観を尊重するが、かたくなな景観保全ではなく、伝統的な景観を継承、発展させる創造的な景観形成を進める。 近代町家等を積極的に保全・利活用し、21世紀の都市型観光や個性ある地域生活を目指すまち機能や新規施設などを充足させる。
基本整備施策	奈良街道（押上町～今在家町）では、現在、電線類の地中化事業が実施されている。 平成17年より奈良街道・舗道空間の整備（幅員構成は現状のまま）に関する地元協議が開始され、舗道空間等の整備が進められる。 道路の都市計画決定の変更を前提に「景観地区」の指定を考える。
景観重要公共施設（候補） 景観重要建造物（候補） 景観重要樹木（候補）	奈良坂と旧奈良街道、奈良街道と一条通りの石橋など 松井邸、西田邸、稲田邸、辻本邸、森本邸など 旧信用金庫建物（空き家）の利活用。きたまち観光の情報拠点+きたまち街道文化の資料館+まちづくり拠点などの機能をもたせる。 ・上記施設の景観整備機構による管理運営、補助や免税等の活用 桜井病院の条例による保存樹（クスノキ）（株）ひのりの巨木、東包永町の巨木（エノキ?など）

（2）旧奈良街道の「都市型観光・生活軸景観形成ゾーン」

視 点	そ の 内 訳
基本的な位置づけ	かつては旧街道筋として店舗があり、大変、賑わっていたそうだ。 北山十八間戸や奈良少年刑務所、般若寺、奈良豆比古神社、旧街道沿道の町家（法蓮格子、農家建て）などがあり、ウォーキング型の観光軸及び沿道型の地域生活軸を形成するゾーン。

	<p>伝統的な街道筋の沿道景観を保全・尊重しながら歩きやすい、歩いてみたくなるような道路環境等の整備（舗道、街路灯、案内・休憩所、まち案内・説明など）を進める。</p> <p>旧の水道関係施設や近代町家等を積極的に利活用し、雰囲気づくりを進める。民間の観光関連の施設等を積極的に誘致、育成する。</p> <p>本街道の個性として、瓦道の「瓦」を利用することも考えられる。</p>
基本整備施策	旧奈良街道の観光散策ルートとしての指定と道路環境の整備推進
景観重要公共施設（候補） 景観重要建造物（候補） 景観重要樹木（候補）	旧奈良街道、佐保川に架かる石橋など 松村邸、近藤邸、仲井邸、有馬邸、農沢邸、平田邸など 北山十八間戸、般若寺、奈良豆比古神社など 水道計量器室や奈良阪水道局の利活用、転用など 奈良豆比古神社の櫓の巨木

（３）雑司町、北御門町の「住宅街景観形成ゾーン」

視 点	そ の 内 訳
基本的な位置づけ	古来より東大寺を支える裏方の地として、及び良好な住宅地として、住環境が守られてきたゾーンである。
基本整備施策	良好な住宅地環境の保持と住宅地と共存するまちかど博物館や文化財指定の農家、美大の寮、お寺などの訪問拠点の整備
景観重要公共施設（候補） 景観重要建造物（候補） 景観重要樹木（候補）	佐保川の自然環境 空海寺、五劫院、鼓阪小学校の講堂など 高山邸、連棟の町家など

（４）多聞町、法蓮町の「住宅街景観形成ゾーン」

視 点	そ の 内 訳
基本的な位置づけ	良好な住宅地環境の保持と多聞山城の歴史や佐保川の自然を積極的に守るゾーンである。
基本整備施策	良好な居住空間と豊かな歴史や自然が共存する
景観重要公共施設（候補） 景観重要建造物（候補） 景観重要樹木（候補）	佐保川、聖武天皇佐保山南陵と東陵など 武家屋敷の風情を残す邸宅、大和棟の民家など

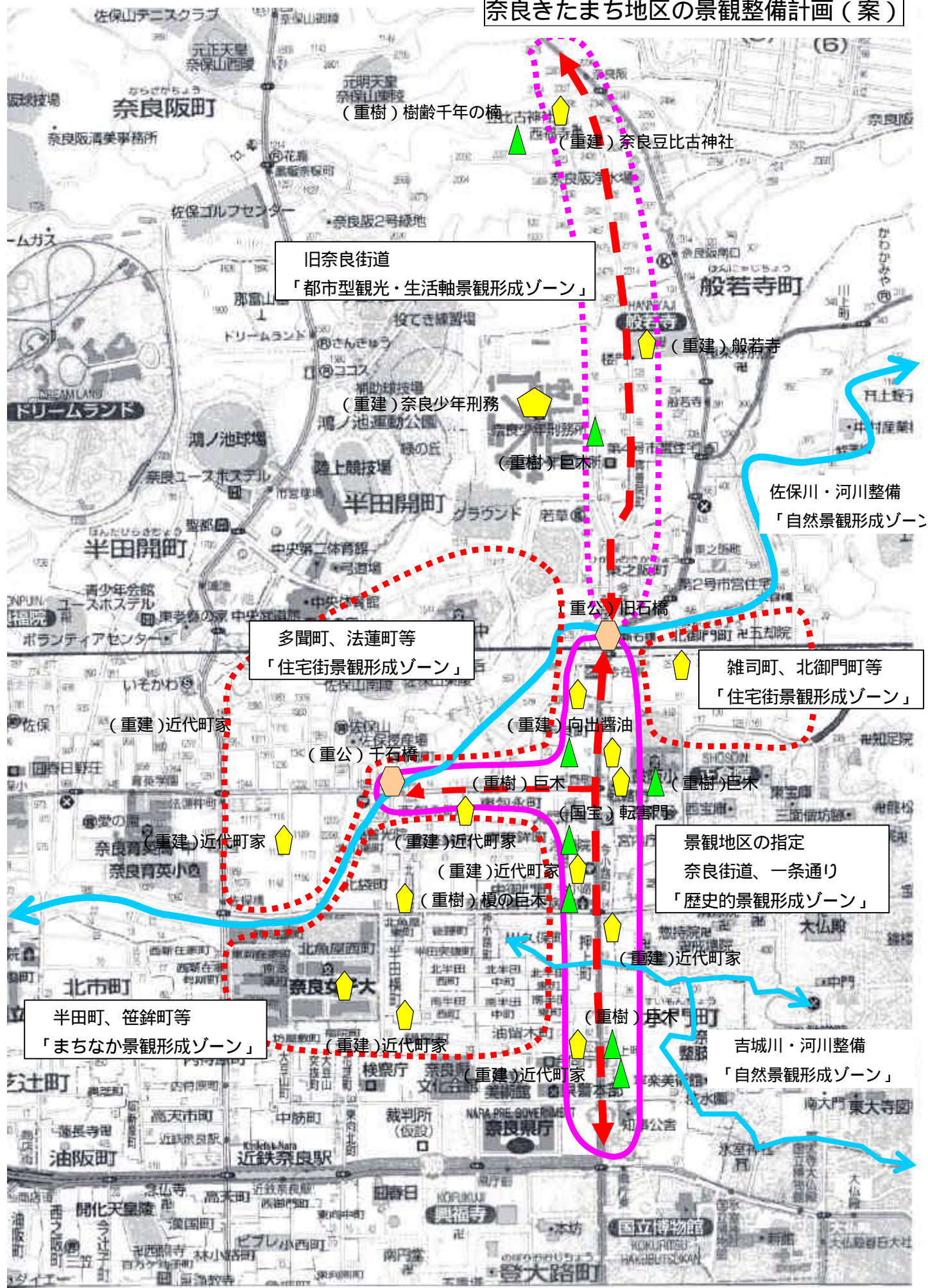
(5) 半田町、笹鉾町の「まちなか景観形成ゾーン」

視 点	そ の 内 訳
基本的な位置づけ	元々、伝統的な職人及び工芸の町であり、近代には町中として大いに発展した繁華街だった。近鉄奈良駅に近く、県庁や裁判所、文化会館、奈良女子大学などがある都心の要衝地（一等地）である。 現在は、住宅との混在地であるが、いずれは都市型の住宅に絞られ、町中として個性的な事業所や商業施設が集積する可能性が高い。
基本整備施策	新旧の建物（町家と現代建築）住宅と事業所、私営と公的施設などの相反する施設が共存する都市的な魅力とそれなりの賑わいをもった街区として整備を進める。個性的な民間商業施設の誘導を図る。
景観重要公共施設（候補） 景観重要建造物（候補） 景観重要樹木（候補）	佐保川、千石橋など 奈良女子大学の本館と門衛所、佐保同窓会館、旧駐在所、戦前の近代建築（天理教）、お寺、伝統的な町家、和菓子店など

(6) 佐保川及び吉城川の「自然景観形成ゾーン」

視 点	そ の 内 訳
基本的な位置づけ	貴重な都市内自然として大切に保全する。水質と水量の確保、自然護岸への復帰、植生や昆虫、魚、鳥獣の保護などを推進する。
基本整備施策	佐保川の「清流ルネッサンス」を推進する。 吉城川の三面張り護岸の改修を図る。また、暗渠になった部分の開渠化を目指し、都市内自然を再生する。 出来るだけ親水護岸や親水公園などの整備を進める。
景観重要公共施設（候補） 景観重要樹木（候補）	佐保川の石橋や千石橋等の保全再生事業 吉城川の威徳井橋等のイメージ豊かな古橋への再生事業

奈良きたまち地区の景観整備計画（案）



旧奈良街道
「都市型観光・生活軸景観形成ゾーン」

般若寺町
（重建）般若寺

多間町、法蓮町等
「住宅街景観形成ゾーン」

雑司町、北御門町等
「住宅街景観形成ゾーン」

景観地区の指定
奈良街道、一条通り
「歴史的景観形成ゾーン」

半田町、笹鉾町等
「まちなか景観形成ゾーン」

吉城川・河川整備
「自然景観形成ゾーン」

3 - 4 景観重要建造物・元銀行建物の利活用計画

世界遺産東大寺転害門（国宝）に隣接するこの町家は、京街道（国道369号）に面し、周辺地域は第1種住居地域に加え第4種風致地区に指定され、高さ12m、建ぺい率40%、等の法的な制限がある。又、前面道路は18mの都市計画道路が計画されており、新築等の場合、壁面後退や建築制限が加えられている地域である。



転害門周辺は、古都保存法による歴史的風土特別保存地区に指定されており、前面の空地よりの景観については、奈良の守らねばならない風景・景観として重要な場所であり、本町家をはじめ道路を挟んだ町家による町並みは、複合的に転害門周辺の景観要素として関連しているものと考えられる。又、昭和15年の道路拡幅に伴い建築された本建物は、旧南都銀行手貝支店として当初より計画され、近代建築の巨匠、武田五一の木造部門を補佐していた、奈良建築界の第一人者であった岩崎平太郎、自らの設計によるものであることが最近判明した。本建物は奈良の近代化遺産の一つとして貴重な文化財としての価値も今後認められることになることが予想される。

本建物は、転害門周辺の京街道（奈良街道）らしい風景・景観を保持するための最も重要な建築物であり、地域の象徴的な近代化遺産である文化財と考えられ、建物を保存し、修理改修による利活用と存続のための運営計画を、市民を巻き込む形で提案運動を展開したいと考えている。

転害門と対象建造物（左端）



(1) 拠点施設としての活用モデル計画

施設の活用に当たっては、世界遺産転害門に隣接していることから、観光客の集客機能を備えつつ、かつ地元住民が気軽に集えて、この施設を起爆剤としてまちづくりが発展する機能を持つものとして検討する。

また、地元住民を初め、NPO 団体、企業、大学、東大寺等が当施設の活用に協力できる体制づくりを行う。

< 地域文化発信拠点 >

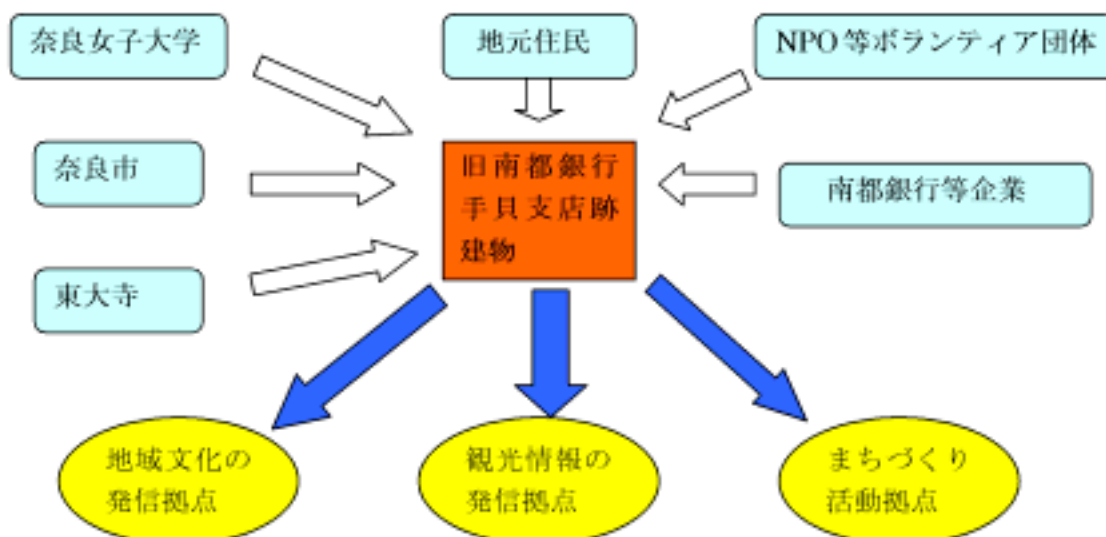
- ・ 東大寺を支えた伝統技能や伝統産業を展示紹介
- ・ 村田珠光、松永久秀、松屋久政等により発生した茶の湯文化を発信
- ・ 多聞城、東大寺、奈良奉行所等、町の歴史文化の発信
- ・ 地域の伝統工芸、芸術家の紹介
- ・ 地域の伝統行事の紹介
- ・ 竹送りや転害会等文化行事の拠点

< 観光情報発信拠点 >

- ・ 地域の観光資源の発掘と観光情報の提供
- ・ 観光客に対するサービス（休憩、湯茶、等）の提供
- ・ 地域ブランド、地場産業品の直売
- ・ インターネットによる地域観光情報の発信
- ・ 観光ボランティアガイドの拠点
- ・ ベロタクシー等のステーション
- ・ 外国人観光客向けステーション

< まちづくり活動拠点 >

- ・ 自治会をはじめ、NPO等のまちづくり活動拠点
- ・ カルチャーセンター等の社会教育、研修機能
- ・ ギャラリー等の展示機能
- ・ 生徒に対するまちづくり教育（ラーニングコミュニティ）
- ・ 町家の利活用、まちづくりに対する相談センター



奈良きたまち地区における景観形成推進のための調査

平成 17 年 3 月

(社)奈良まちづくりセンター

(宮本、上嶋)

奈良街道まちづくり研究会

(金剛、山口、田中、磯部、小室)